

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	聖隷こども発達支援センター和合（聖隷こども発達支援センターかるみあ和合）		
○保護者評価実施期間	2024年9月10日		～ 2024年9月29日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○従業者評価実施期間	2024年9月10日		～ 2024年9月29日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3名	(回答者数) 3名
○訪問先施設評価実施期間	2024年9月10日		～ 2024年9月25日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	5園	(回答数) 5園
○事業者向け自己評価表作成日	2024年12月20日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どものことを理解し、子どもや保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で保育所等訪問支援計画が作成されている。	療育での様子や支援でうまくできていること、有効な支援について情報収集し、園での助言に活かす。 特に就学支援については、保護者の希望を園と共有させていただきながら、両者でのサポート体制をとれている。	節目ごとにサービス担当者会議を開催し、支援の方向性を確認する。 園での様子を療育にフィードバックし、こども理解と必要な支援の提供を促す
2	保護者に対し、支援計画の内容や実施した支援内容について適切に共有されている。	保護者がお子さんの園生活について困っていることや心配していること等をその都度確認するとともに、訪問終了後、できるだけタイムリーに報告するようにしている。	一方的な報告ではなく双方向のコミュニケーションを通して保護者のこども理解、安心に努める。 園での取り組みについて、かるみあでできること、家庭でできること等、保護者の求めに応じて助言できるよう努める。
3	訪問先からの相談や、質問に対し適時適切に回答している。園での課題や困りごとが解消されている。	園が対応に苦慮しているお子さんに対しては、頻度を一時的に増やし、直接支援に重点を置き支援している。 日程調整は園の希望を伺い、負担が大きくなるよう配慮している。	園や児の困り感に応じた日程や時間帯で行けるよう調整するとともに、園の実情に合わせた支援の提案や助言ができるよう努める。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	定期的に通信やHP、SNS棟で活動概要や連絡体制などの情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信できていない。	自己評価の結果公表、緊急時の対応、個人情報の取り扱いなどのリスク管理について、保護者への周知が不足している。	契約時に左記項目について丁寧に説明する。また、コドモンアプリを活用し、いつでも確認できる環境を整える。その点も含めて説明できるよう改善する。
2	保護者が理解できるようにわかりやすく説明する	保護者へのタイムリーな報告はできているが、報告の中で、保護者が十分理解できたかどうかの確認はできていなかった。	保育所等訪問支援に期待する保護者の思いや子どもの育ちへの願いを踏まえ、心配なことや疑問点について安心して話をすることができるよう関係構築と面談の場の設定を工夫する。
3	訪問先の園が必要とする助言や説明をわかりやすく伝える。	園の集団での姿、療育での姿それぞれの違いを把握し、必要な支援・環境調整が何かを園と共有することはできている。一方で、園の先生の願いや困り感、園の中での目標設定がどこか等、情報収集が不足しているとともに、そこに合わせた支援の提案が不十分である。	園の理念や保育観を理解し、児に対する願いや困り感に基づいた助言に努める。又、実際に提案した支援について、効果を振り返るため、訪問毎のPDCAサイクルを循環させる。